みんなで三池の火

て十七名もの尊い生命がうばわれたのである。また毎月四〇〇名ちかくもが重軽傷をうけ、この一年には、おびただしい数の仲間が人命軽視、保安無視の職場で傷つけられた。

また差別のひどい職場での、職制の支配は非道で荒々しく、まさに職場のファッショである。

職場での民主的な権利をふみつけにし、人権無視・人権じゅうりんの攻撃で公然と露骨な支配を確立しようと、職制は威丈高な態度でのぞんできた。

更に時間外における柵内での団結集会の禁止、腕章・鉢巻の着用禁止、執行委員の入門入構の制限などその攻撃は狂暴さをきわめた。

会社は、こうした状態のうえにきずかれた闘争前をおおきく上廻る協定、さらには三十一名にたいする不当な解雇処分問題、離職者にたいする社宅明け渡し問題などにみられる一連のおおがかりな三池労組ぶっつぶしの攻撃にのりだしてきた。

しかし、こうした攻撃は一方ではかえって彼等のあせりのふかさをしめすものである。

また、わずかばかりの身のしろ金で、底なしの労働強化を強要される第二組合員の中からも、抵抗の芽とほのおがめばえ、もえないといえるだろうか。

私たちは、きびしい現実に対決するはげしいたたかいの中から、明日への展望をよみとり、そこにすすむ力を確信することができるのである。

展望と決意を新たにしよう

三池闘争は孤立していない

就労後一年間、差別取扱い・組織介入・組合活動の抑圧がいよいよ激化している。ストライキも実施しているのになぜ、これらの不法な攻撃が排除されないのか。この点はみんなで討議しなければならない大切な事柄である。

第一に、一方的合理化強行を必死にはかる資本家が、いまや正常な組合活動をさえ認める余裕をもたないからである。

第二に、このことは差別や職制強化がすでに他資本（例えば古河）ではそのものズバリの「合理化提案」として出されていることで明らかである。

第三に、三池では第二組合をいまは最大限に利用し得るため、あくまで緊急にこの際とばかりに三池労組の骨抜きを企図しているからである。

第四に、なぜなら第二組合内部にも不平不満が内攻しはじめているので、これを抑えるためにも三池労組には高姿勢をとらざるを得ないからである。

第五に、まだ脱落がストップされていないから、会社は自己過信の下で、差別強行に出ているわけである。

しかしながら、三池闘争の成果について会社は過少評価をしている

第一に、公平な第三者からみて、これだけの切りくずし資金と悪どい職権乱用の攻撃にたいして、三池労組の抵抗が意外に強いことである。いまや冷静な者にとっては、なぜもっと脱落がふえないのか、ということが非難なのである。

第二に、労働者階級の壮大な歴史的な三池闘争の経過の中で、三池労働者の「質」の変化が予想外だということである。

組織に自分のすべてを託すことは言うべくして実行できないことだが、三池労組員とその家族たちはギリギリの労資間の対決の中で、三池労組を守り抜いているわけであるが、組織の量と質の関係を会社は軽視している。

第三に、もし三池労組員が「質」的にガッチリまとまったら、脱落がストップされ、第二組合側の「量」的宣伝に迷うものはいないことになる。

第四に、三池労組は決して孤立していない。

季刊労働法（四二号）や労働法律旬報（十一月下旬号）で、第一線労働法学者による極めて積極的な差別反対が指摘されだしたし、東京芸術座の「地底から＝三池たたかいの記録」は先日の東京初演を大成功裏に終わって全国的な巡演に入ろうとしているし、総評臨時大会や来月末からの炭労臨時大会では、三池闘争推進の具体策が確立されつつある。

組織内部の充実

政転大行進に参加した組合員、北海道、常磐、九州その他へ逆オルグに行った組合員の報告は、先方の組織的動向の如何ということより、三池労組員としての自覚と決意の強化となってあらわれている。

三池労組を「残っている組合員」ということでなく「たたかっている組合員」と呼称すべきである—というような細かい表現にも力点がおかれ出している。

諸々のサークル活動が、有力な組織づくりそのものの方向として強化され評価されつつある。

いまや、第二に行けばもうかるとだけ考える者はいなくなった。

たしかに当面の苦痛に耐え切れぬ者もいるが、第二組合内部のバラバラなうごき、団結などとはほど遠い実態がバクロされるにしたがい、脱落後の「不安」が次第に大きく成長しだしていることなども事実である。

私たちの身近かな者の個々の充実は、三池労組全体の組織的充実となってはね返りつつあるがこれは一年間の耐えまない抵抗闘争の貴重な成果であり、何物にもかえがたい組織的な「宝」である。若い世代の運動へのたくましい参加、主婦たちのめざましい前進はこれをうらづけている。

体制的なたたかい

国連を舞台にする世界的な政治外交のうごきからみても、いわゆる植民地諸国の反帝国主義、反植民地主義の活発な展開が、とくにこの一年間著しいものがあった。人口七億をもち真剣な建国の意欲に満ちた中国の国連加入問題も「重要事項指定」というごまかしで一応ケリをつけられた形だが、このつぎには「加入承認」がほとんど決定的だといわれている。

アメリカに保護されるだけの台湾はもちろん独立国ではないし、二つの中国などあり得ないことが常識であるからである。

資本主義がもたらす戦争の危機や搾取反対は、新しい時代の体制的なものとなりつつある。池田自民党内閣は、いわば資本主義の体制的危機を打開するためにひどい弾圧政策を実際にはとっている。

教育政策の反動化は、たび重なる教育への権力介入や不当処分となってあらわれているし、政暴法や労働運動弾圧に狂奔し、一般国民生活を苦しめる物価値上げをみても貧富の差の拡大以外の何ものでもない。

したがってわれわれのたたかいも幅広い市民各層との提携をふくむ護憲闘争や政策転換や反ファッショ闘争の展開が不可欠となってきたわけである。

労働運動の体制的構えが、これからの課題であるゆえんである。

世界は活発に生々と動いているし労働者も一方的な合理化や弾圧に抵抗せざるを得ないからである。

今年は、このような幅広い対決の年となることが必至である。

われわれの決意

会社は、失地回復を通りこして明らかに三池労組壊滅を企図せざるを得なくなっている。三池労組の組織および地元大地評、総評など上部組織の団結の内面分析をすればこれは当然でもある。したがって今後の攻撃はいよいよ激化してくるにちがいない。われわれは、あたたかい同志愛とち密な大衆討議をもって、会社の出方を検討し、あくまで「不当」を許さぬ毅然たる対決を継続する決意を新年に際して申し合わせているわけである。

闘いを支えたサークル活動

ねばり強くたくましい力が、たたかいをささえた。また、たたかいはみんなの心をきたえ、美しくゆたかにした。

就労後のはげしいたたかいの中でいくつものサークル活動が芽ばえて、のびてひろがった。

そして、みんなの心をつなぎ、たたかいをささえる大きな力となった。

あの三池争議の中でずっと、高らかにひびきつづけていた「うたごえ」。そして防中うたごえ代表団に仲間をおくり、日本のうたごえ活動の中でもとくに先進的な活躍をしめし、偉大な成果をあげ、高い評価をうけた三池のうたごえ。

ひどい労働の仕事あがりに、三番方の出勤前に、日曜日に手弁当をさげて各地区をまわって親しまれよろこばれた楽団みいけ。

会社の卑俗な支配機構にはめこめられた趣味グループ、そんなものとはまったく異質な、労働者の愛情がかよいあっており、人間の心でむすびあっている金魚サークル、バイクサークル、囲碁・将棋サークルなど。

真実の声でつづった、たたかいの記録や、文学作品。

あの巨大な団結大運動会や、団結諸行事。

こうしたさまざまな活動が、力強くたたかいをささえた。

また、宮浦支部の山根房光さんが十年余にわたってこつこつと調査し書きつづり、そして三池争議と就労後に加えてきた会社と官憲が一体となった弾圧、差別攻撃にはげしい怒りをこめて書きあげた、三池炭鉱の弾圧と差別と、たたかいの歴史の記録〃みいけ炭鉱夫〃がこのほど労働大学の協力を得て出版され、ひろく熟読されていることは、特筆されるべきものがある。

主婦も一緒に家族ぐるみ

主婦もはかりしれない力をしめした。

大幅な賃下げとなったうえの差別賃金で、苦しい家計を守り、子供を守って、内職にもはげみ夫をささえ、はげましてたたかった。

しかも、それは気負いたって血まなこになってそうしたのではなかった。

生命をうみ、生命をそだて、夫を子供を愛し、卑屈な屈従を排折するたくましく美しい、正しい母親主婦にとって、必然のことだった。

ためらわず内職にいそしみ、骨肉の労苦をいとわずがんばっているのである。しかもそれは家計の穴うめをしようという赤字をおっかけるだけの打算においまわされているものでなく、はげしい差別・切りくずし攻撃とたたかう夫へのカンパと連帯をしめす妻の「共闘」そのものである。

こうした家族ぐるみの「共闘」はひとつひとつの家族単位で営まれているだけではない。

地域単位にいくつもの家族が一体になり、また周辺の主婦が話しあって、とくに苦しい条件のもとにおかれている家庭への内職カンパをおこなうなど、相互にたすけあい、はげましあってがんばっている。

そして、主婦たちはこうしたきびしさの中で、たたかいの背景と本質、その展望を学ぶ学習にはげみ、みんなで正しいかまえと、あたたかいスクラムを組みあげてきた。

このような、家族ぐるみのたたかいに、未来をきずく不屈の力の泉があるし、そこにはすでに新しい時代そのものさえ芽ばえている。

○物価値上げ反対総決起大会＝延命体育館前で＝（二十六日）

○職制の組織介入に対する抗議行動の指示だされる（二十八日）

○久保清さん殉難の碑除幕式（二十九日）

○集会所および放送施設撤去問題について組合は、大牟田地裁にたいし「占有権妨害禁止」の仮処分申請を行なった（三十日）

○総評春闘第一次統一行動、炭労は賃上げ要求などで二十四時間スト突入＝三池はのぞく＝（三十一日）

【四　月】

○ニュースカー「はたかぜ号」第二世誕生、威力を加う。

○大牟田地裁で、集会所および放送施設の撤去についての会社の実力行使禁止さる（一日）

○[illegible]安保体制打破・合理化反対・生活と権利を守る」二万人の大集会ひらかる（七日）

○炭労企反闘争などで一時間五十分時限スト＝三池はのぞく＝決行（八日）

○高松で「生活と権利を守る」五万人の大集会ひらく＝三池から三十名が参加（十五日）

○韓国でクーデター（十六日）

○政暴法案審議にはいる。（十六日）

○韓国で張議長の軍人内閣成立（二十一日）

○大地評主催の反動立法粉砕総決起大会ひらかれる＝笹林で＝（二十五日）

○村上勉さん＝四山＝殉職（二十九日）

【六　月】

○政暴法衆院で強行採決（三日）

○高松で「安保体制打破・政暴法粉砕・合理化反対・生活と権利を守る福岡県民大集会」ひらかれる。（四日）

○杵島で「安保体制打破・合理化反対・杵島支援総決起大会」ひらかれる。（七日）

○宮浦で井上議武さん＝三池労組＝、村上進さん＝第二組合＝殉職（十一日）

○中国青年連協交事務局長来組（十二日）

○大地評主催で池田渡米反対大牟田地区大会＝笹林＝（十七日）

○池田首相渡米（十九日）

○九州炭労定期大会（十九日から三日間）

○吉田正義さん＝三川＝殉職（十九日）

○日教組大会政治路線問題で流会となる。（二十三日）

○高松で「政暴法粉砕・池田内閣打倒・安保体制打破・合理化反対福岡県青年婦人総決起大会」ひらかる。（二十五日）

○炭労合理化反対、政転要求で一

から）

○山元トップ交渉の会社最終回答でる。（二十四日）

○過半数突破の第二組合パレード（二十七日）

○山元トップ交渉決裂（二十九日）

○ソ連核実験再開声明（三十日）

○三鉱連加入申請（三十一日）

【九　月】

○ソ連核実験を再開（一日）

○「差別反対総決起大会」＝笹林公園でひらく。（三日）

○杵島一三六日にわたったストを中止し就労はじめる。（四日）

○差別排除の交渉決裂にともなう闘争体制点検整備、団結集会の実施などの炭労および、三池労組の指示でる。（五日）

○山元交渉再開（七日）

○炭労臨時大会をひらき「政策転換闘争方針」「三池への二・五カ月カンパ」などをきめる。（九日から）

○差別・組織介入粉砕で、三池二十四時間スト決行（十五日）

○会社は団結集会の実施や、ハチマキ、腕章の着用禁止や、執行委員の入構・入門阻止など組合活動の抑圧制限にでる。

○ハマーショルド国連事務総長死す（十七日）

○高松闘争事態収拾をきめ、九十六日にわたったスト中止（十八日）

○北富士演習地問題解決（〃）

○武州鉄道汚職で楢橋代議士ら逮捕（二十日）

○政転行進団＝三池からは四十六名＝出発（二十五日）

○執行委員の入構阻止について大牟田地裁に妨害排除仮処分申請（二十六日）

○学力テスト拒否闘争（二十六日）

○三池の差別排除闘争についての炭労指令＝毎週一回の実力行使決行＝でる—中闘発第一四三号指令（二十七日）

○熊本地裁で百田さん（四山）ら七名に実刑をふくむ弾圧判決でる（二十九日）

【十　月】

○大地評定期大会（二日）

○第一回方別スト＝坑内外三番方＝を決行（四日）

○中川梅雄さん（三川第三組合）殉職（七日）

○方別スト＝坑内三番方＝を決行（十三日）

○学力テスト反対闘争（十三日）

○方別スト＝坑内三番方＝を決行（十七日）

○方別スト＝三番方＝決行（二十四日）

○不当解雇処分についての団交（二十四日）

○会社、離職者一二六名をふくみ二二二名におよぶ社宅明け渡しを裁判所に申請す。（二十五日）

○不当解雇処分についての団交（二十八日）

○総評臨時大会、春闘方針、三池支援決議、炭鉱労働者を守る会などをきめる（二十七日から）

○じん肺闘争についての三権集約無記名投票（二十七日から）

○北海道、常磐、九州各炭労へのオルグ出発（二十八日から）

【十二月】

○中国人民救済会代表三名来組（一日）

○炭労期末闘争で無期限スト突入（一日から）

○中労委のあっせんにより三万円で期末闘争妥結、スト中止（四日）

○第五回世界労組大会はじまる＝モスクワで、北岡執行委員炭労代表として出席（四日から）

○日本のうたごえひらく（八日から）

○会社団交を一方的に打ち切り二十八名にたいし解雇処分通告を強行（十一日）

○第二組合の役選（三カ月延期の無記名投票結果）賛成四、一一七、反対五七一、白紙五〇二、棄権一、五四九で、四〇%に近い反対・棄権票は注目される。

○旧軍人、右翼によるクーデター計画発覚（十二日）

○第三次政転上京オルグ団（三池から三十名）出発（十四日）

○方別スト＝坑内一番方＝決行（十五日）

○方別スト＝坑内常一番＝決行（十五日）

○方別スト＝坑内三番方＝決行（十五日）

○九州炭労さん下各支部の三池オルグ卅二名来山（廿六日から）

○改選延期についての無記名投票おこなう（十八日から）

○各県評、各単産からの三池オルグ三十一名来組（十九日から）

○二十八名の不当解雇について福岡地裁に解雇無効の仮処分申請をおこなう（二十日）

○方別スト＝坑内三番方＝決行（二十二日）

○古河目尾で福岡県安保共闘主催の「合理化反対、政策転換、生活と権利を守る大集会」をひらき一万人が結集した。（二十四日）